

2 青森県景気ウォッチャー調査

(1) 調査の概要

青森県景気ウォッチャー調査は、統計データには表れにくい、県民の生活実感により近い景気動向、いわゆる「街角景気」に関するきめ細かな情報を素早く収集し、県内の景気をよりの確に把握することを目的とする調査です。平成13年(2001年)7月に調査を開始して以来3カ月ごと(1月、4月、7月、10月)に実施し、翌月上旬に結果を公表しており、速報性が高いのも特徴です。

調査方法は、県内を東青・津軽・県南・下北の4地区に分け、家計関連・企業関連・雇用関連の各分野で、地域における経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種に従事する100名の方々(コンビニエンスストア店長や小売店員、タクシー乗務員、ホテル支配人、スナック経営者等)に「景気ウォッチャー」を委嘱し、現場の景況感に関する事項について回答していただいています。

主な調査事項は、「3カ月前と比べた景気の現状に対する判断(方向性)とその理由」及び「3カ月後の景気の先行きに対する判断(方向性)とその理由」の2点です。判断理由については、自由記述により回答していただいております。景気の実感に対する生の声をうかがうことができます。

なお、令和2年度4月から実施している特別調査「新型コロナウイルス感染症による県内の景気への影響に関する調査」の結果については、第2部第2章第2節「新型コロナによる経済や雇用等への影響」(130ページ)に記載しています。

○ 地区別・分野別客体数

地区	対象地域	調査客体数			
		合計	家計	企業	雇用
東青	青森市とその周辺部	30	23	4	3
津軽	弘前市、黒石市、五所川原市とその周辺部	30	22	6	2
県南	八戸市、十和田市、三沢市とその周辺部	30	21	7	2
下北	むつ市とその周辺部	10	9	1	0
	計	100	75	18	7

○ 分野別の業種・職種

家計関連	小売	コンビニエンスストア、百貨店・スーパー、乗用車販売、衣料専門店、家電量販店、一般小売店、商店街、卸売業
	飲食	一般飲食店、レストラン、スナック
	サービス	観光型ホテル・旅館、都市型ホテル、観光名所等、旅行代理店、タクシー、美容院、娯楽業、ガソリンスタンド
	住宅	設計事務所、住宅建設販売
企業関連	食料品製造、飲料品製造、紙・パルプ製造、電気機械製造、建設、経営コンサルタント、広告・デザイン	
雇用関連	人材派遣、新聞社求人広告、求人情報誌	

○ DIの算出

5段階の判断それぞれの所定の点数に各判断の構成比(%)を乗じて、DIを算出しています。

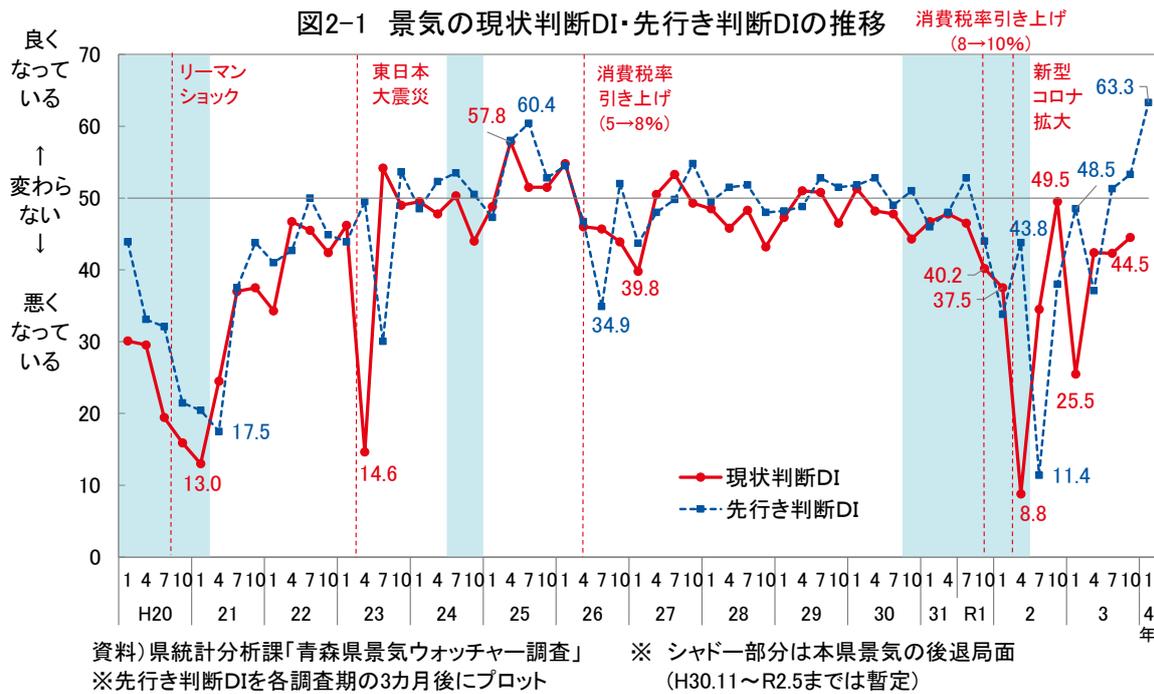
評価	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	1	0.75	0.5	0.25	0

※ 回答者全員が「(景気は)変わらない」と回答した場合、DIは50となるため、50が景気
方向性を表す目安となります。

(2) 景気の現状判断DI・先行き判断DIの推移

3カ月前と比べた景気の現状に対する判断を示す指標である「現状判断DI」は、リーマンショック後の平成21年(2009年)1月期に下降した後は上昇に転じ、途中、平成23年(2011年)の東日本大震災発生直後に大きく下降したものの、その後の政府の経済対策などにより平成25年(2013年)4月期には過去最高の57.8まで上昇しました。消費税率が引き上げられた平成26年(2014年)4月期以降は下降が続いたものの、平成27年(2015年)4月期にはプレミアム商品券販売効果などにより再び上向き、その後は概ね50前後で推移しました。しかし、令和元年(2019年)10月1日からの消費税率引き上げによる節約志向の高まりや、来客数・売上の減少により、同年10月期には40.2にまで下降しました。

令和2年(2020年)になると、消費税率引き上げの影響が残る中、暖冬による季節商品の売上低迷もあって下降したところに、新型コロナの世界的な流行が始まりました。これにより宴会等のキャンセルが相次いだほか、イベント等の中止や外出自粛などにより同年4月期には8.8と過去最低の水準となりました。緊急事態宣言が解除され、徐々に客数や消費活動が回復し始めたことや、特別定額給付金の効果などから、同年7月期には大幅に改善し、10月期には新しい生活様式への慣れなどから49.5と50に迫る回復を見せましたが、同年12月の新型コロナの感染拡大によるGo To トラベルの停止や年末年始の忘新年会の自粛等により、令和3年(2021年)1月期には25.5と景況感は再び悪化しました。その後、人出が増加し、同年4月期には42.4と改善したものの、コロナ禍の長期化による経済活動の停滞により同年7月期はほぼ横ばいとなりました。同年9月の県独自の新型コロナ緊急対策(116ページ「新型コロナに係る主な対策内容」参照)により、客数や売上が減少した一方で、新型コロナのワクチン接種が進んだことで同年10月期には44.5に若干上昇しました。(図2-1)



また、3 カ月後の景気の先行きに対する判断を表す指標である「先行き判断DI」は、平成21年(2009年)4月期はリーマンショック後の景気対策への期待感から、平成23年(2011年)4月期は東日本大震災後の復興需要への期待感からそれぞれ大きく上昇しました。平成25年(2013年)には、景気回復への期待感から50を上回る時期が続きましたが、消費税率が引き上げられた平成26年(2014年)4月期には34.9にまで落ち込みました。その後、消費回復への期待感から上昇し、平成27年(2015年)以降は概ね50前後で推移しました。しかし、消費税率引き上げを控えた令和元年(2019年)7月期には、消費の冷え込みへの不安などから下降し、同年10月期も大きく下降しました。令和2年(2020年)1月期になると、東京オリンピック・パラリンピック開催への期待から上昇しましたが、新型コロナが世界的に流行し、イベント等の中止や外出自粛等による経済活動停止への懸念から、同年4月期には11.4と過去最低の水準となりました。その後は徐々に経済活動が回復することへの期待から、同年10月期には48.5にまで上昇しました。

その後の新型コロナの感染再拡大により、令和3年(2021年)1月期には再び下降しましたが、新型コロナのワクチン接種が始まったことによる不安解消効果に加え、県内の祭りやイベント等の開催による人出の増加への期待感から、同年4月期には51.3と50を上回りました。同年7月期以降はワクチン接種が進むことによる人出の増加や経済活動の活性化への期待感から上昇が続き、同年10月期には過去最高の63.3となりました。(図2-1)

(3) 地区別景気の現状判断DIの推移

「現状判断DI」について、地区別にみると、リーマンショック後や東日本大震災発生直後は全地区で大きく落ち込みましたが、震災の被害が甚大だった県南地区では、復興需要により概ね50を上回って推移しました。消費税率が引き上げられた平成26年(2014年)4月期以降は、概ね全地区で50を下回る時期が続きました。平成28年(2016年)は、北海道新幹線開業効果など

(4) 景気の実感

～「景気ウォッチャー」生の声 令和3年(2021年)調査の「現状判断コメント」から～

(◎：良、○：やや良、□：不変、△：やや悪、×：悪)

◆令和3年(2021年)1月期調査

○	弘前市でコロナによる飲食店クラスターが発生して低迷したが、その後にGoToキャンペーンで持ち直したうえ、出来秋や年末年始の需要・消費増が大きい。(新聞社求人広告=津軽)
□	上向いてきたか、と思えば感染症の拡大で再び落ち込むという流れの繰り返しなので。(百貨店=東青)
□	GoToが始まって、さあこれからと言うときに県内各地でのクラスター発生によって消費者の行動は再び殻に閉じこもったようです。(経営コンサルタント=県南)
□	コロナウイルス感染不安からのヒト、モノの流れ停滞が依然として続いている。ヒトが動けば感染が拡大する状況に陥っていると思う。(新聞社求人広告=東青)
△	新型コロナウイルス、冬の平均賞与減少により、外出自粛に加え、節約の意識が高まり、必要なものしか買わない傾向が見られます。(スーパー=東青)
△	建築は消極的に感じる。コロナ禍の様子をうかがっている気配があり、検討はするが、時期の決断が出来ないでいる。(住宅建設販売=津軽)
△	職種的には今は繁忙期にあたりますが、例年と比べると厳しい状況です。コロナウイルス感染拡大が騒がれている間は、厳しい状況が続くと思います。(パチンコ=県南)
△	新型コロナ感染者の増加により、GoToトラベルの一時停止や、GoTo商店街のイベント自粛等で人の動きが減っている。その一方、厳しい寒さと積雪により、生活必需品の動きは多少ある。(商店街=県南)
△	緊急事態宣言発令に伴う観光産業を中心とした経済活動の停滞。(広告・デザイン=東青)
×	GoToトラベルで11月期は持ち直すも新型コロナウイルス再拡大と大雪のダブルパンチで急降下。(一般小売店=東青)
×	10月の弘前でのコロナクラスター以降、大半の仕事がキャンセルとなった。(都市型ホテル=津軽)
×	不要不急の外出や忘年会などを自粛要請しているため街は人も車も少ない。(商店街=津軽)
×	寒波による道路事情の悪さと首都圏のコロナ感染拡大による帰省自粛により集客がかなり悪くなっている。(百貨店=県南)
×	第3波のコロナ禍の影響により、例年でも宿泊客が減少する客場に益々拍車がかかっている。又、飲食を伴う宴会はほぼ皆無に等しく、忘・新年会は少人数で数件でした。(都市型ホテル=下北)
×	昨年後半から、コロナ拡大の影響を受け、予定していた広告、イベントが中止になり、再開のめどが立っていない。(広告・デザイン=県南)

◆令和3年(2021年)4月期調査

◎	これまで動きの鈍かった高額品の動きが目立つようになってきました。(百貨店=東青)
○	コロナの影響で冷え込んだ昨年に比べると、我慢していた計画を今年は実行しようと動き出しているのではないかと。(設計事務所=津軽)
○	3カ月前と比べてやや良くなっているだけで、景気そのものはあいかわらず良くはない。(商店街=津軽)
○	ウイルスに対する予防対策を知り、世の中の動きが少しずつ見えてきたのが気を付ければ外出しても良いかなという気持ちに変わってきた結果かもしれません。(旅行代理店=県南)
□	新型コロナウイルス感染の収束がみられず、社会、経済も一進一退を繰り返している状況が続いている。(新聞社求人広告=東青)
□	相変わらずのコロナ禍騒動で、落ち着きそうになれば新たに陽性者が出て緊張の環境になり、各々が自粛ムードになり結果商売が傷売になる。その繰り返しで、先があまりにも見えない。(一般飲食店=県南)
□	緊急事態宣言中でしたので規制がある中での景気と解除されたといえど感染を心配して出歩かない為悪いままで推移している。(卸売業=県南)
□	急遽の人員不足などはあるが、人員削減が多く新しい求人が発生していない。(人材派遣=東青)
□	三ヶ月前の緊急事態宣言下に比べると解除後の今は少し行動範囲が広がっているようだが、外出自粛傾向も変わらず第四波到来への怯えがあるように思える。(美容院=津軽)
□	大手スーパー関係はわりと良いようです。零細企業は厳しすぎます。(食品製造=東青)
△	コロナウイルスによるクラスターが発生し、年配層を中心に外出を控えている印象。(スーパー=東青)
△	前年度にコロナの感染症が出た頃で、そのまま景気が悪化。その景気は、かわらず悪いが続いている。(コンビニ=津軽)
△	引き続き、市内、県内でもコロナが発生しており、各種イベントが相次いで中止となっているため。(住宅建設販売=県南)
×	市内からコロナが出るとキャンセルに！！(レストラン=東青)
×	県内でのコロナクラスター頻発。(衣料専門店=県南)

◆令和3年(2021年)7月期調査

<input type="radio"/>	コロナ禍の中での行動の仕方に慣れてきたのか、少しずつ人の流れが増えてきている。(ガソリンスタンド=東青)
<input type="radio"/>	コロナの影響で控えていた計画も徐々に実行へとなってきています。(設計事務所=津軽)
<input type="radio"/>	ワクチン接種が始まって自粛ムードが緩和され、購買活動が徐々に活発になりつつある。(経営コンサルタント=東青)
<input type="checkbox"/>	3カ月前も悪かったので同じ。緊急事態宣言によりツアーキャンセルあり。(観光名所等=東青)
<input type="checkbox"/>	まだまだ新型コロナウイルスの影響が景気に悪影響している。(旅行代理店=津軽)
<input type="checkbox"/>	観光・飲食業の景気は底のまま推移している。(都市型ホテル=津軽)
<input type="checkbox"/>	前年は、一時金の支給で一瞬消費が上向いた時があったが、今年は要因が見当たらない。又、前年に引き続き七夕まつり、三社大祭など中止になっている。(百貨店=県南)
<input type="checkbox"/>	想像していたほどの変化はない。ワクチン接種も2回目の接種を終えたら、もう少し人の動きが出てきてもいいのではないかと期待していたが残念。(タクシー=県南)
<input type="checkbox"/>	コロナ感染は減少傾向にはあるが、まだ感染が続いており小康状態とは言えず、上向きといえる好転材料は見えてはいない。(建設=県南)
<input type="checkbox"/>	新型コロナウイルス感染症の収束がまだみられない。(新聞社求人広告=東青)
<input type="checkbox"/>	春先にはいったん景気が上向いた。しかし、県内でのコロナ感染が増えだすと人の移動が途絶え昨年よりも深刻と考えている。(衣料専門店=東青)
<input type="checkbox"/>	持久戦が長引き、自分ではどうしようにもなくなっている。(設計事務所=県南)
<input type="checkbox"/>	コロナの影響で中小の宿泊業、飲食業は壊滅的です。いいのは、運輸、大手小売りなどでしょうか？自粛空気が経済を停滞させていると思います。(経営コンサルタント=県南)
<input type="checkbox"/>	宿泊施設や料理飲食店を中心に客足が全くなき静まりかえっている。(観光名所等=津軽)
<input type="checkbox"/>	年度末や新年度の時期は必要最低限の動きはあったように感じるが、今はほとんど感じられない。(商店街=県南)

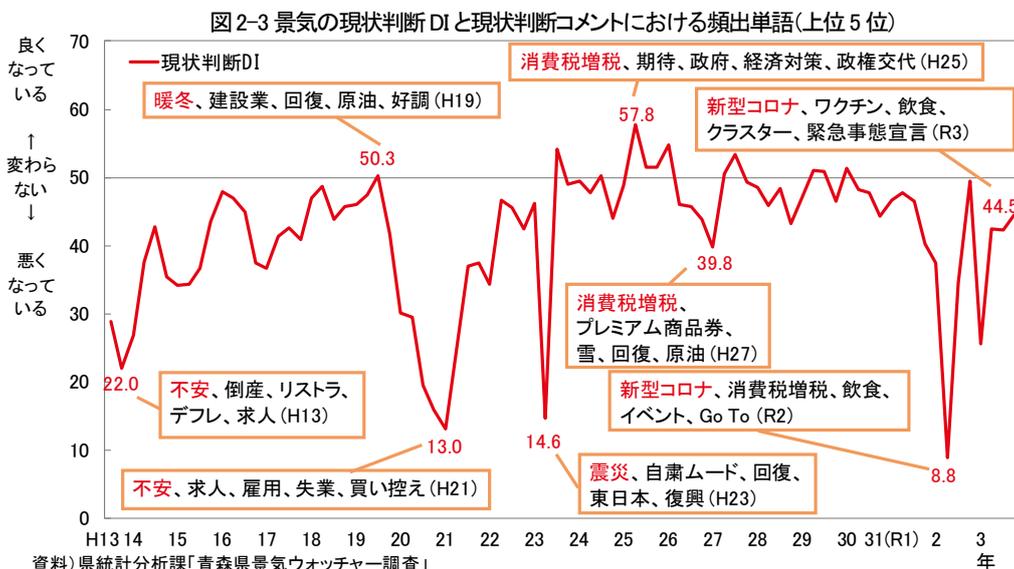
◆令和3年(2021年)10月期調査

<input checked="" type="radio"/>	4月～6月は前年比78.3%であったが、7～9月は98.8%に回復した。(一般小売店=津軽)
<input type="radio"/>	都内の緊急事態宣言の解除、コロナワクチンの接種状況などにより人の流れが戻りつつある。(都市型ホテル=下北)
<input type="radio"/>	ワクチン接種も2回を終えた人が多くなり、徐々に街中や様々な行動に人の動きが見えてきている。家族での飲食やゴルフ交遊など徐々に増えてきているように見える。(建設=県南)
<input type="checkbox"/>	長く続く出控えによって来店されるお客様の数は増えません。むしろ後をひくのか様子を見ているのか、とにかく静かです。(一般飲食店=東青)
<input type="checkbox"/>	ワクチン接種状況が進むにつれ少しずつ観光客は戻ってきてはいるが、相変わらず例年並みには程遠い状況である。(観光型ホテル・旅館=東青)
<input type="checkbox"/>	感染症に対する警戒感には依然変わらない。(美容院=津軽)
<input type="checkbox"/>	コロナ感染予防の為、旅行関係、飲食店は例年の半分以下なところが殆どです。夏祭りもなく、お盆の帰省客も全然でした。(ガソリンスタンド=下北)
<input type="checkbox"/>	7～9月の東南アジアのロックダウンで部品の入手が難しい物が出ていて生産調整している。また、日本は緊急事態宣言が終わったが、引きつづき来県来社の方は少なくビジネスは停滞ぎみです。(電気機械製造=県南)
<input type="checkbox"/>	新型コロナウイルスの緊急事態宣言等の制限は解除されたが、まだワクチン接種が完全に終了しておらず、生活に制約が残っている。(紙・パルプ製造=県南)
<input type="checkbox"/>	最近若干感染者はやや少なくなっているようだが、相変わらず新型コロナ感染を警戒して外出を控えるケースが続いている模様。(人材派遣=津軽)
<input type="checkbox"/>	8月後半の感染症拡大以降、来店客数・売上とも大きく減。(観光名所等=東青)
<input type="checkbox"/>	むつ市内もコロナが発生し、8月には大雨による災害が発生したため。(一般小売店=下北)
<input type="checkbox"/>	9月公共の施設関連が県の要請で閉鎖された影響で、9月の売り上げが悪化している事業所がある。飲食店では、いつの間にか閉店している店舗がちらほら見える。(経営コンサルタント=津軽)
<input type="checkbox"/>	クラスターが発生した影響で部活動など外出する事が無くなり売上は下降している。(コンビニ=津軽)
<input type="checkbox"/>	緊急事態宣言の為に人流がなくなった。(卸売業=県南)

(5) キーワードで見る街角景気

平成13年(2001年)7月から県で実施している青森県景気ウォッチャー調査では、3カ月前と比べた景気の現状に対する判断の理由を景気ウォッチャーに記述していただいています。

この「現状判断コメント」には、その時々々の景気の実感に対する景気ウォッチャーの生の声が反映されているということに着目し、記述していただいたコメントの中でどのような単語がよく使われていたのか、各年ごとにみていきます。(図2-3、表2)



資料)県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査」

※景気の現状判断DI…3カ月前と比べた景気の現状に対する判断を表す指標。50が景気の方角性を表す目安となる。

※頻出単語…「現状判断コメント」の中で多くの回答に含まれていた単語。なお、抽出単語は名詞のみとし、同じ意味で使われている単語は統一して集計した。また、「売上」「客」「価格」「増加」「減少」等の、前後の文脈で内容が変わる単語は除外した。

表2 現状判断コメントにおける頻出単語一覧(年別、上位10位程度)

平成13年 (2001年)	平成14年 (2002年)	平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)
不安 倒産 リストラ デフレ 求人 低迷 購買意欲 失業	倒産 不安 建設業 回復 失業 求人 雇用 リストラ 購買意欲	建設業 倒産 冷夏 失業 不安 求人 イラク戦争 回復 公共工事 雇用 新幹線開業	回復 建設業 地方 倒産 中央 公共事業 台風 来店 街 好調	原油 大雪 低迷 求人 好調 倒産 高騰 期待 建設業 閉店	回復 原油 中央 倒産 期待 地方 建設業 好調 求人 公共事業	暖冬 建設業 回復 原油 好調 高騰 地方 期待 雪 求人	原油 高騰 食料品等 不安 買い控え 建設業 倒産 世界不況 低迷 米金融危機	不安 求人 雇用 失業 買い控え 製造業 倒産 原油 世界不況 政権交代	回復 求人 期待 低迷 必要 エコポイント 来店 デフレ 不安	震災 自粛ムード 回復 東日本 復興 被災 新幹線開業 観光 原発 キャンセル	震災 原油 回復 復興 観光 大雪 政治 活気 不安 高騰

平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	平成31年・ 令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)
消費税増税 期待 政府 経済政策 政権交代 円安 地方 アベノミクス 回復 株価上昇	消費税増税 駆け込み需要 回復 反動減 受注 政府 原油 買い控え 期待 経済政策	消費税増税 プレミアム商品券 雪 回復 原油 円安 建設業 地方 賃金	消費税増税 原油 期待 雪 暖冬 プレミアム商品券 建設業 好調 人手不足 台風 EU離脱	受注 人手不足 回復 雪 人口 不安 維持 実感	原油 人手不足 高騰 好調 観光 外国人観光客 街 自然災害 インバウンド	消費税増税 人手不足 10連休 駆け込み需要 改元 不安 回復 街 期待 人件費	新型コロナ 消費税増税 飲食 回復 イベント Go To 自粛 外出 宿泊	新型コロナ ワクチン 飲食 クラスター 緊急事態宣言 外出 感染拡大 Go To 回復 経済活動

資料)県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査」

※出現件数順